

2021年度

放送教育実践事例集

全放連研究推進部

幼稚園 年長組 保育マップ型記録を利用した、番組視聴における「しかけ」の設定
～「しぜんとあそぼ」の視聴から翌日以降につながる遊び～

旭川宝田学園めいほう幼稚園 山本 健太

【実践報告の概要】

幼稚園の放送教育では、子どもの興味や関心を予測して活動を発展させる「しかけ（環境設定）」が展開される。本実践では毎日の保育を連続したものとして捉え、視聴の翌日以降にも遊びや活動が繋がることをねらって保育を展開していく。さらに、翌日以降も「しかけ」を設定するようにした。視聴当日の子どもの姿や遊びを読み取り、効果的な「しかけ」を設定するために、視聴日の放課後に保育マップ型記録を用いて活動を記録していく。

【取組の具体】

幼稚園 年長組 「しぜんとあそぼ -いのしし-」

1. 番組の視聴と振り返り

- ・ 15分の番組を全体視聴する。
- ・ 番組を見た感想や疑問を伝え合うことで、知識や情報を深める。

2. 遊びと振り返り

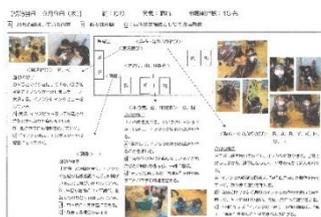
- ・ 保育室で自由に遊ぶ時間をとる。番組から刺激を受けて遊ぶ子どもが多い。

「いのしし」の放送回では、いのししの制作、制作したいのししで遊ぶための川や草の制作、自身がいのししになりきる、図鑑などで調べるといった遊びをする姿が見られた。

- ・ 遊びの終わりに全員で集まり、遊んだ内容を伝え合う。図鑑で調べた子どもは、調べたことを発表する。

3. 記録の記入

- ・ 放課後に保育の記録を書く。2種類の記録（視聴記録と保育マップ型記録）を使用する。



4. 「しかけ」の選択と準備

- ・ 記録と遊びの読み取りから、翌日以降につながる「しかけ」を考えて準備する。

5. 翌日以降の遊び

- ・ 昨日までの遊びの続きや、保育者による「しかけ」から遊びを発展させていく。
- いのししの放送回では、関連動画の視聴、動物園への園外保育、崖の制作と上って遊ぶ姿が見られた。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「しぜんとあそぼ」

- 身近な自然に対しても、自分たちの地域にはない自然に対しても、深い興味や関心をもつことができる。身近な自然に関しては、実際に探したり見に行ったりすることができるため、保育室に収まらない体験活動ができる。
- 視聴後の関連する遊びや活動の選択肢が多い。例えば作る・なりきる・調べる・実際に見に行くなど。過去に視聴後に動物園へ見学に行くこともあった。

【本実践における工夫点】

保育マップ型記録

遊びの展開を中心に保育室全体の様子を書き、それぞれの遊びが翌日発展していくための準備を考えていく。準備の例としては制作材料を置く、看板や門を作って置いておく、関連する動画を探す、などがある。

「しかけ」の設定

「しかけ」とは、子どもの遊びや活動が発展していったり、子どものアイデアが生まれやすくなったりする環境の工夫のことで、環境設定や子どもへの刺激、とも呼ばれる。制作材料や制作物などの物的環境だけでなく、保育者の声かけや援助などの人的環境も含まれる。保育マップ型記録で子どもの姿や遊びの展開を読み取り、翌日の遊びにつながる「しかけ」を考え、準備をして設定する。

【本実践の成果○と課題●】

- 保育マップ型記録を書くことで遊びを中心とした視点で読み取りができ、翌日に予想される遊びの流れや発展の可能性が見えやすくなった。
- 翌日までに記録を書いた上で「しかけ」の準備をしなければならなかったため、放課後が慌ただしくなってしまう。しかし、子どもたちの遊びを止めるわけにはいかず、また「しかけ」を数日経ってから設置するのでは効果が薄くなってしまふ。

小学校1年 生活・学習経験を生かして学びを広げる「すたあと」の活用

川崎市立南菅小学校 北林 新菜

【実践報告の概要】

新1年生においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連した指導展開が求められている。スタートカリキュラムが意識された「すたあと」を活用することで、児童が活動内容を共有し、安心感や期待感をもって学習へ取り組みると考えた。これまでに培ってきた生活・学習経験を生かせるように、それらを基盤にした授業設計を行った。年間を通して番組活用することで、児童が自分なりに工夫をしたり創造力をもって活動に取り組んだりすることができた。学級として、主体的に学びを進めていく経験を積み重ねることができた。

【取組の具体】

○みんなとなかよしになろう (4月・スタカリ期・生活科)

<基盤となる経験>

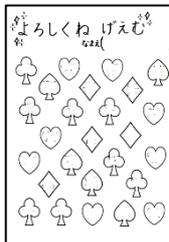
- ・朝の会の健康観察・図工「すきないろでぬろう。」
- ・児童の声「“ともだちびんご”をやりたいな。」

<活動の流れ>

1. 課題の確認。「なかよしになるげえむをしよう。」
2. 「じこしょうかいげえむ」の回を視聴。
 - ・楽しそう。・友達じゃない人とは出来ない。
 - ・名前が書けない人はどうするの。・早くやろう。
3. ゲームの方法を話し合う。
 - ・やろうと言うよ。やだは言わないよ。
 - ・平仮名が読めるから、教えてあげるね。
 - ・「よろしくね」でタッチしたら楽しくなりそう。

4. 話し合った方法でゲームを楽しむ。

※10分×3日間で実施する。



○ころろがぼかぼかになるおべんとうやさんをひらこう (10月・教科学習・図工)

<基盤となる経験>

- ・ごっこ遊び ・遠足の日のお弁当
- ・図工「ごちそうパーティーをひらこう (油粘土)」

<活動の流れ>

1. お弁当を食べた日のことを思い出す。
 - ・みんなで食べて楽しかったな。
 - ・おいしくなあれって作ってくれたのかな。
2. 「おりがみのおべんとうやさん」の回を視聴。
 - ・豪華なお弁当だな。・私はお寿司を作ろう。
 - ・折り紙をちぎったりを包んだりして作りたい。
3. 「ころろがぼかぼかになるおべんとう」を作る。
4. お弁当屋さんごっこをする。
 - ・いらっしやいませ。・おすすめは何ですか。
 - ・中にキムチが入っていて辛いですよ。
5. 活動を振り返る。
 - ・みんながにこにこで買ってくれて、嬉しかった。
 - ・次はアイス屋さんを作ってみんなに来てもらう。



【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「すたあと」

- 教科の学びに繋がるテーマも取り扱われているため、年間を通して活用することができる。
- 5分間の短い番組であるため、入学当初の児童でも、意欲や集中力を維持したまま活動に取り組める。
- 繰り返し楽しめる内容であり、児童が試行錯誤したり、次の活動を創造したりしやすい。

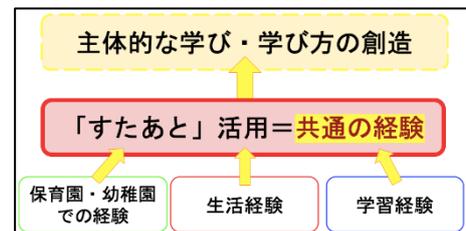
【本実践における工夫点】

年間を通した番組の活用

「スタカリ期」「教科のきっかけ」「各教科学習」の三つの段階に分けて実践を行った。年間を通して継続的に活用することで、就学前から経験のある「番組視聴」が、学習のきっかけにもなっていくようにした。

生活・学習経験を生かした授業設計

就学前の経験や、これまでに学級で重ねてきた生活・学習経験を生かして授業設計を行った。児童が主体的に学びを進めたり、学び方や活動の内容を創造したりすることができるようにした。



【本実践の成果○と課題●】

- これまでの経験を生かした授業設計をすることで、番組の活動をまねるだけではなく、児童が自分なりに工夫をしたり創造力をもって学習に取り組んだりすることができた。
- スタカリ期から学び方を創造する経験を積み重ねてきたことが、学級に主体的に学びを進めていく基盤をもたらした。
- 番組活用をスタートカリキュラムや年間指導計画の中にあらかじめ組み込んでいるとよい。
- 担任の日々の実践であるため、客観的な裏付けや分析があると、より成果を見取ることができる。

小学2年 生活科 「まちのよいところを交流校の友達に紹介しよう」学校間交流の取り組み

鳥取県琴浦町立八橋小学校 谷田 健司

【実践報告の概要】

2年生活科「町たんけん」の学習で、県内の地域性の違う学校とリモートで学校間交流を行った。その際、学校放送番組「おばけの学校たんけんだん」を活用しながら取り組んだ。単元の導入では、それぞれの学校で番組視聴し学習の見通しを持たせた。作品づくりでは、意見交流ができる場を設定し、番組の内容や番組ホームページの作品を活用しながら意見交換できるようにした。番組活用しながら学校間交流することで、両校の児童が意欲的に意見交換をしながら、地域のよさを気づくことができた。

【取組の具体】

小学校2年生 生活科

「まちのよいところを交流校の友達に紹介しよう！」

1. 町たんけん計画を立てる。

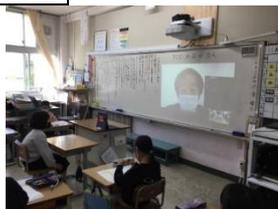
- ・「おばけの学校たんけんだん」を、それぞれの学校が一斉視聴した。視聴後に、「何を調べるか」「何をまとめるか」「誰に何を伝えるか」を確認し、学習の見通しをもたせる。
- ・八橋地区にあるみんなの使う施設を発表し、見学したい施設を決める。
- ・施設の写真を提示し施設を利用した体験を想起させ、調べたいことや聞きたいことを考える。

2. 公共施設を見学に行く。

- ・公共施設（図書館・コミュニティーセンター・地元ケーブルテレビ）を見学したり、インタビューをしたりする。
- ・見学後、わかったことやもっと知りたいことを付箋に書き出し、ワークシートにまとめる。

3. 施設の方とリモート会議を行う。

- ・施設の方と「Google Meet」を使い、質問する。
- ・施設の方に聞いて、わかったことをワークシートに付け加え、伝えたい内容を決める。



4. リーフレットを作成する。

- ・リーフレットを作成しはじめたときから、交流校とWeb上で共有し、意見交流ができるようにする。
- ・番組ホームページの児童作品や友達の作品を自由にできるようにし、リーフレットの作り方を確認したり、意見交換や学び合いを促したりする。

5. オンライン発表会を行う。

- ・Web上で両校の児童の作品を公開し合い、友達の作品の良いところや感想を打ち込む。
- ・友達からもらった作品のコメントを発表し合い、八橋地区にある公共施設の良さをまとめる。

6. 感想交流会を行う。

- ・オンライン交流会を開き、自分の作品のコメントに対する感想を発表し合う。
- ・交流会のふり返りを行う。



【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「おばけの学校たんけんだん」

- 身近な自然や地域の人との出会う中で、様々な感覚を使って「気づき」の幅を広げていくことができる。
- 活動のふり返りでは、活動にあった表現方法が提示されている。表現させながら気づいたことを自覚させ深い学びに繋げていくことができる。
- 学校間交流の際、両校で同じ番組を視聴したり、番組HPの番組児童作品を活用したりすることで、単元の学習の見通しや作品をもとにした意見交換ができる。

【本実践における工夫点】

両校が番組視聴し、学習の見通しを共通理解する

導入で、それぞれの学校で番組を視聴する。その際、何を調べ、何をまとめ、誰に何を伝えるかを番組内から見つけ出し、活動の見通しを両校が共通理解できるようにした。

作成段階で伝え合う「いいところ見つけ交流」を行う

作成初期から、Web上で作品を公開し、交流校や学級全体で作品を見せ合える場を設定した。児童の学習意欲を高めるために、作品のよいところを見つけて打ち込みをさせた。

様々な感覚を使ってまとめることに気づかせ、見方や考え方を深める

作品の内容を様々な感覚で地域のよさが書かれているか確認させる。クラスの友達や番組児童の作品から、まとめ方や書き方などを気づき、まとめさせた。

【本実践の成果○と課題●】

- 両校が同じ番組視聴をすることで、お互いに学習の見通しを共有することができ、相手校の学習状況や作品の感想を書き込みやすくなることができた。
- 番組HPを活用することで、五感を使った調べ方や作品から公共施設のよさのまとめ方を知り、深い学びに繋げることができた。
- 作成段階から交流を行うことで、相手意識をもちながら交流ができることと他地域からの驚きや賞賛してもらうことで、学習意欲が向上し、自分の地域のよさを自覚することに繋がった。
- 学校間交流を年間カリキュラムに位置づけ実施することで、より深い見方や考え方に繋がると考える。
- 作品づくりで写真や友達の文書を使用する際、引用や出典、著作権などの情報モラルを、低学年から段階的に指導して中学年以降に繋げる必要がある。

小学校2年 生活科 タブレット端末を活用して まちのひとたちと豊かに交流する

～「おばけの学校たんけんだん」を活用して～

東京都港区立高輪台小学校 田端 芳恵

【実践報告の概要】

小学校2年生活科「もっともっとまちたんけん」の学習において、NHK for School「おばけの学校たんけんだん」を活用することで、実際にまち探検を行う上での視点やインタビューの内容・方法について具体的なイメージを膨らませたり、活動への意欲を高めたりした実践である。具体的な活動では、コロナウイルス感染症対策のため、直接見学することやインタビューができないため、録画された映像を通じた「見学」や地域の方々への質問とその回答をタブレット端末を介してやり取りした。子どもたちは、地域の方々との間接的な交流ではあったが、リアリティのある映像を通して、自分たちのまちのよさやひみつを発見し、自分の生活がまちや人々の営みと深くかかわっていることに気づき、番組を参考にポスター作りを通して学びを交流した。

【取組の具体】

- 「まちをはっけん大はっけん」(全9時間)

自分たちの身の回りの地域を見直し、すてきだなと思うことや不思議だなと思うことを探して伝え合う。
- 「もっともっとまちたんけん」(全17時間)

(第1時)

第6回「まちのすてきを見つけよう」を視聴し、行ってみたい場所や会いたい人を出し合う活動を通して、地域のことをもっと知りたいという意欲を高める。

(第3時)

 - ・子ども達が行ってみたい場所を中心に、まちを探検する。

※コロナ禍のため、お店や施設の中に入って見学したりインタビューしたりすることが難しいため、教員が撮影してきた動画を参考に「疑問に思ったこと・聞いてみたいこと」をタブレットで撮影した。
 - ・外からの見学の形となったが、お店や施設や働く方々の様子を写真に撮り、発見したことをメモに取る。

(第5時)

 - ・見学後は、番組視聴をもとに発見したことの分類と関連付けを行う。

(第7時)

 - ・自分たちがさらに知りたいと思ったことや疑問に思ったことを出し合い、分類して質問内容をまとめる。それを質問動画として撮影し、店や施設の方に見ていただき、同じように動画で質問に答えてもらう。質問のしかたのイメージは番組からヒントをもらう。

(第10時)

 - ・回答していただいた動画を視聴し、映像から伝わることや説明していただいたことで、さらに「まちのすてき」を発見した。
 - ・学んだことをどのようにまとめるかを考えるために、再度番組を視聴する。自分たちの町探検と番組の町探検を比べて、見つけた「すてき」をまとめて伝えるための視点(表現方法；番組ではリーフレット、本学級ではポスターとした)を明らかにした。
 - ・他のクラスや1年生に、そのお店のよさや特長を「ポスター」にまとめて発表する。

【活用番組と実践者による番組分析】

「おばけの学校たんけんだん」

『まちのすてきを見つけよう』『大すき！みんなの図書かん』

「しまった！情報活用スキルアップ」『調べる インタビュー』

「おばけの学校たんけんだん」は、身近な自然や社会、町や地域の人々とかかわる中で、子どもたちに気づかせたい事柄やものの見方・考え方をわかりやすく提示している。また、毎回の活動内容に合わせた表現方法を取り上げており、自分たちの気づきや学びを分かりやすく伝えるにはどのようにすればよいのかを具体的にイメージさせてくれることで、主体的に学習に向かう意欲を喚起させてくれる番組ととらえている。

【本実践における工夫点】

一斉視聴と個別視聴のよさを生かす

一斉視聴では、視聴中のつぶやきや視聴後の話し合いを通して「まち探検」への意欲を高めたり、見学の具体的な計画を共有したりすることができた。個別視聴では、個々の課題意識や疑問点に基づいて、再視聴や部分視聴を行うことで自己解決や自分らしい学びのスタートとした。

タブレット端末の活用

コロナ禍において、お店や施設の中に入って見学したりインタビューしたりすることはできなかった。そこで、情報の記録、まとめ、発信などにタブレット端末を主としてコミュニケーションツールとして活用した。実際、子どもたちは働く人の様子を撮影したり、発見したこと、気付いたことをメモに取ったりした。

見学後は、自分たちがさらに知りたいと思ったことや疑問に思ったことを出し合い、分類して、質問内容をまとめ、それを動画で撮影してお店や施設の方に見ていただいた。お店や施設の方からの質問の答えも動画でいただいた。

【本実践の成果と課題】

番組視聴は、子どもたちの「まち探検」に対する意欲を喚起し、学習に対する見通しをもつことにつながった。また第5回『大すき！みんなの図書かん』のパンフレット制作は、ポスター作りにおいてのポイントを掴むことにつながった。さらに、「しまった！情報活用スキルアップ」の活用によって、実際にインタビューする場面を想定し、質問する事柄を考えることにつながることができ、動画作成に役立てることができた。教師は、個々の学習課題に対して適切な番組を、効果的に活用することで子どもたちの学びをより深めることができると考える。

タブレット端末の活用によって、使いたい見たい番組を子どもたちが自身が検索して視聴することが可能になっていることで、個が主体となって学びを進め広げることができ、教師は指導に生かしたいと考えた。一斉視聴で単元の課題づくりを行い、問題追究の際にはタブレット端末を活用することで、2年生なりに個々の問題意識や追究したい事柄で調べることができた。子どもたちは、この学習を通して高輪という「まち」についての思いや理解を深めただけでなく、タブレット端末を活用して伝えることや情報を収集すること、友達と協働して学ぶことのよさを学ぶことができた。



小学校3年 『コノマチ☆リサーチ』を活用した、知識・技能の育成

川崎市立富士見台小学校 加藤 優子

【実践報告の概要】

新型コロナウイルス感染症の拡大により、児童の体験的な活動や協働的な活動に影響が出てきている。一方、川崎市ではGIGAスクール構想における機器や環境の整備が急速に進んでいる。こうした状況から、小学校3年生の社会科でNHK for Schoolの『コノマチ☆リサーチ』を活用し、活動の場面によって視聴方法を工夫した実践を行った。地域の様子について興味をもち、関わり合いながら学ぶことで、知識・技能の定着を図った。

【取組の具体】

1. 課題の設定

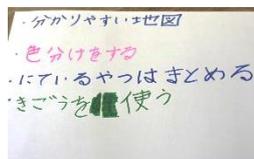
- ・1回目の学区探検で集めた情報をもとに、子どもたちが思い思いに地図を作る。
- ・自分たちが作った地図がわかりづらいことに気づき、問題点を話し合う。
- ・2回目の学区探検の後、『コノマチ☆リサーチ』～コノマチの地図をつくれ！～を一斉視聴し、自分たちが作った地図と比較することで課題を見出す。

2. 情報の収集

- ・番組をもとに「わかりやすい地図」とはどんな地図なのかを考え、クラス全体で意見を交流し地図作りのポイントを共有する。

3. 整理・分析

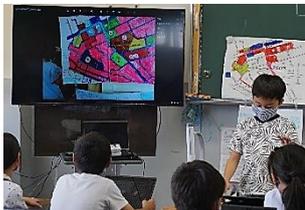
- ・番組視聴とクラスでの話し合いをもとにつくった「わかりやすい地図」の条件をもとに、学区探検で集めた地域の情報を整理する。



本クラスで作成した、
わかりやすい地図の条件

4. まとめ・表現

- ・整理した情報をもとに、グループで地図を作成する。
- ・必要に応じて番組を個別視聴し、地図作りのポイントや表し方を確かめる。
- ・全体でそれぞれの地図のよいところを見つけ合い、意見を交流して理解したことを振り返る。



【活用番組と実践者による番組分析】

『コノマチ☆リサーチ』第2回

「コノマチの地図をつくれ！」

- 本番組は身近な地域の様子を具体的に取り上げ、「まちのひみつ」に子どもたちが気づくことで、社会的なものの見方・考え方を身につけていくことができる。

【本実践における工夫点】

視聴方法の工夫

学習のはじめには、「わかりやすい地図」がどんな地図なのかをクラス全体で共有し、地図作りのポイントを話し合うために番組を一斉視聴した。話し合いを通して見出した共通の視点をもってグループ活動を行い、その中で1人1台の端末を活用して個別視聴をした。地図作りのポイントを振り返ったり、手本となる番組の中の地図やその中で使われている地図記号を確かめたりする際に、繰り返し視聴できるようにした。

【本実践の成果と課題】

- 地図にまとめるという経験がなかったために、どのような地図を作ればよいのかわからなかった児童も、番組の一斉視聴とクラスでの話し合いを通して共通のイメージをもって学習に取り組むことができた。
 - 必要に応じて個別視聴をすることで、地図作りのポイントをすぐに確かめることができ、技能の習得につながった。また、調査活動によって得た情報を適切に地図に表すことができたことにより、土地の利用と交通の様子とのつながりをとらえたり、自分のまちの地形の特徴をとらえたりすることにもつながった。
- ⇒今後も、子どもたちが目的意識をもって主体的に学習に取り組むことを大切に、その上で番組の効果的な活用の工夫を探っていきたい。

小学校4年 放送番組とロイロノート（jamboard）を連動させた道徳授業作り

東京都杉並区立新泉和泉小学校 稲田 路子

【実践報告の概要】

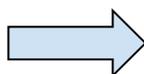
NHK for School の番組を授業中に一斉視聴し、併せて1人1台端末を活用するためには情報活用能力を高めたいと考えた。そこで端末と放送番組を活用した GIGA 時代における新たな道徳の授業を模索した。端末を活用することで、自主的な学びを深められるように今後も実践を重ねて考察していきたい。

【取組の具体】

小学校4年 道徳「相互理解・寛容／個性の伸長」

- 今日の学習のめあてを確認する。
 - 友達との関係について考えることを知る。
 - 本時の学習教材を知る。
- 授業前の課題に対する自分自身の考えをまとめる。「友達のどんなところが好きですか」
 - ロイロノートで提出箱を作って白い紙に書いて提出する。（・jamboard の場合はシートを作り白付箋で書いて提出させる）
 - テキストマイニングなどで言葉を可視化するとよりわかりやすくなってよい。
 - 1人1枚ずつ書いてオンラインで無記名にして前に掲示していく。
 - 他の児童の意見も見てかいてもよい状態にして共有を認める。
- 番組を一斉視聴する。
 - 視聴するときに登場人物の「菜（さい）」と「マコ」のよいところを探しながら視聴するように指導する。
- ワークシートに、「菜（さい）」と「マコ」の友だちとしてよいところを書かせて、話し合う。
 - よいところをかいているうちに自分は友達のどんなところが好きなのかを考えていることに気付かせる。
 - 教師の説話を聞く。
- 授業後に課題に対する自分自身の考えをまとめる。「友達のどんなところが好きですか」
 - ロイロノートで提出箱を作って黄色の紙に書いて白い紙につなげて提出する。（・jamboard の場合は新たにシートを作り白付箋で書いて提出させる）
 - テキストマイニングなどで言葉を可視化するとよりわかりやすくなってよい。
 - 前半と後半でどのように変容したかを共有する。
 - 全員の意見を無記名状態で共有する。
 - ワークシートに今日のふり返りを書いて、学習を振り返る。

普通に接してくれる人



相手の言うことに、積極的に意見を言う人

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「もやも屋」

- 児童の心のもやもやから道徳的なことを考えさせる内容となっており、児童の実態や身に付けさせたい力によって、放送回を選んで視聴することができる。
- 児童が親しみや共感をもって好んで視聴している番組である。
- 黒板絵や指導案・ワークシートがあり、授業準備が少なくてすむのも便利である。

【本実践における工夫点】

学習計画の工夫

- ・一斉視聴をさせた。同じ画面を見て意見を言い合いやすくするためである。
- ・意見の交流には、隣り合った児童とまず行い、従来の黒板も使い意見を提示するなど安心して意見が言える場や環境づくりを行い意見が言いやすい環境を整える。
- ・1人1台端末を使って1人1人で考えて提示できるようにした。また授業前と後で児童の考え方や気持ちの変容をわかるように意図的に書く作業を指導に組み入れた。
- ・話し合いの他に授業前後に気持ちを言語化したものを見合い自分の気持ちの変容を感じさせる。

放送回の選定

- ・本学級の実態に合わせて、児童に身に付けさせたい力を考え、放送回を選定した。
- ・年間指導計画に準じて本放送回を選択した。

【本実践の成果○と課題●】

- 番組視聴を通して、友達に対して好きなところはどこかを考えてどう接したらいいかをお互いに理解することができた。
- GIGA 端末と放送番組を使って児童の変容を見取ることができた。そのため評価においても適切に処理することができた。
- 「もやも屋」は、道徳授業以外でも児童自身が各家庭で視聴している番組である。今後もどのような場面で活用できるのか授業づくりの視点から考えていきたい。

小学校4年 だれでもできる だれでもわかる 放送教育

埼玉県草加市立栄小学校 内山 真実

【実践報告の概要】

NHK for Schoolには、多くの番組やクリップ動画がある。児童が番組を見る姿は真剣で、まるで動画の中に入ったように反応する。そして見ているうちに、何かはわかってきたり、疑問が生まれてきたりしていく。埼玉県放送教育研究会では、児童の学ぶ喜びを大切にしている。番組視聴により、クラス全体の知識の土台がつけられ、番組を見ている間の自己対話、番組を見終わった後の他者対話により一人一人の学びを深めていくことができる。だれでも明日からすぐに取り入れられるのが放送教育だ。

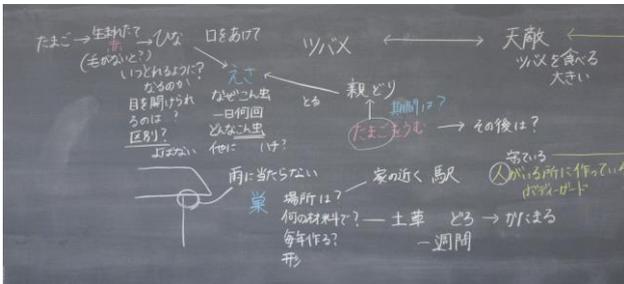
【取組の具体】

児童とともに板書をつくる

○「ツバメがやってきた」(5月)

番組を視聴後、わかったことや疑問に思ったことを共有する機会を与える(空発問)。発言された内容を板書上で整理し、児童の発言をつないでいく。どの考えも受け容れ、板書することで、安心して発言できるようにしている。

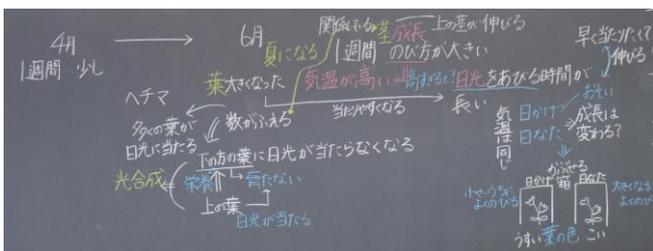
この学習では、ツバメの巣作りやひなを育てる親鳥の様子から玄関の軒下に巣をつくる理由に考えが広がっていった。



学習の導入・予想の手がかりにする

○「夏になると…？」(7月)

導入で見せることで新たな疑問をいただいたり、自分たちの育てているへちまの育ちについて予想を立てたりすることにつながった。



実験後のたしかめとして視聴する

○「金属が大きくなる？」(12月)

実験後に視聴することで、結果のたしかめになった上、生活の中で現象の利用についての知識が加わった。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組 理科『ふしぎがいっぱい』

- ひとみちゃん(吉田仁美さん)と一緒に不思議を探し、その理由を実験する流れで、ストーリー性がある。そのため児童と一緒に疑問をもち、現象を理解しやすくなっている。
- 早送りで植物の成長や月の動きを見たり、植物や動物に接近して観察ができたりと映像ならではの良さがある。
- 学校内にはない本格的な実験装置を使った実験を視聴することで、疑似体験的に学習できる。
- たくさんの要素がちりばめられているため、児童が様々な視点から発表できる。

【本実践における工夫点】

発問の工夫・構造的な板書

番組を視聴した際には、思ったことや考えたことを自由に発表できるようにした。発表内容は黒板で整理し、児童の発表をキーワード化したり、関連する言葉を線でつないだりと構造的な板書になるようにした。

計画的な番組視聴

単元の導入として視聴させる他にも、実験後の視聴により理解を深められるようにするなど、単元の中で視聴するタイミングを計画的に行った。

【本実践の成果○と課題●】

- 番組視聴を続けていくことで、発言をする児童が増えてきた。構造的な板書により、児童の中でも関連する考えを板書の中から探すことができるようになってきている。
- 活用しやすい理科や社会、道徳以外にも放送教育の可能性を見いだしていきたい。

小学校 5年 国語 メディアのあり方について考えを深めるための番組活用

シンキングツールを使った対話的活動を通して

横浜市立新石川小学校 武井 三也

【実践報告の概要】

1人1台情報端末が整備され、児童がメディアを能動的に利用していく機会が増えている中で、メディア・リテラシーを育成する必要性が高くなった。そこで本実践では、小学5年生・国語において、学校放送番組「メディアタイムズ」を活用し、1人1台情報端末でシンキングツール（クラゲチャート）に考えをまとめ・伝える対話的な学習活動を行った。結果として、番組活用とシンキングツールを用いた対話によって、メディアのあり方に関する「意見文の質が高まったこと」「対話が促されたこと」を確認できた。

【取組の具体】

【1時間目】

- 生活経験から、メディアとのかかわり方について振り返り、学習課題をつくる。

【2時間目】

- 教材文「想像力のスイッチを入れよう」を読み、自分の考えをもつための計画をたてる。

【3時間目】

- 教材文全体の文章構成や展開をおさえて読み、内容の大体をとらえる。

【4時間目】

- 事例と意見との関係について叙述を基におさえ、事例を挙げて説明する良さを考える。

【5時間目】

- 筆者のいう「想像力のスイッチ」について考え、筆者の意図を捉える。

【6時間目】

- 筆者の考えの中心を要旨にまとめる。

【7時間目】

- NHK 学校放送番組『メディアタイムズ』第6回「フェイクニュースを見抜くには」を視聴し、筆者の考えとの共通点を整理しながら、メディアとのかかわり方について自分の考えをもつ。

【8時間目】

- メディアとのかかわり方について対話し、自分の考えを深める。
- 対話をふりかえり、自分の考えを整理する。

【9時間目】

- メディアとのかかわり方について自分の意見をまとめる。
- 友達と意見文を共有し、考えを広げる。
- 単元のふりかえりをする。



【活用番組と実践者による番組分析】

メディアタイムズ「フェイクニュースを見抜くには」『メディアタイムズ』は、メディアのあり方を考える上で、送り手としての立場も考えることができる内容が含まれている。『メディアタイムズ』は、メディアのあり方について考えるきっかけとなる異なる2つの立場が問いとして提示される。これを考えることで、送り手としての立場も考えることができる。

【本実践における工夫点】

【教材文の読み取りと番組活用】

「想像力のスイッチを入れよう」では、情報を受け取る側の視点からメディアを捉え、「メディアタイムズ」では、メディアの送り手側の視点からメディアを捉えることで、より深く「メディアのあり方」を考えられるようにした。

【1人1台端末×シンキングツール】

1人1台情報端末でクラゲチャートに考えをまとめ・伝える対話的な学習活動によって、メディアのあり方に関する「意見文の質の向上」、「対話の促進」を図った。クラゲチャートをお互いに閲覧しながら、対話を進めることで、自分の意見との共通点・相違点を見つけやすくなると考えた。

【シンキングツールを用いた書く活動】

対話後のシンキングツールをもとに意見文を書くことで、自分の考えが整理され、全児童が自分の考えを意見文に書き表すことができた。

【本実践の成果と課題】

1人1台情報端末でクラゲチャートに考えをまとめ・伝える対話的な学習活動によって、メディアのあり方に関する「意見文の質が高まったこと」「対話が促されたこと」を確認できた。「メディア・リテラシーを育むためにメディアのあり方に関する意見文を書く授業実践」において1人1台情報端末を活用する有効性を確認することができた。一方、そのような記述を確認できなかった学習者の思考プロセスがどのようなものだったかについては、今後の課題である。

小学校5年 理科 理科番組と動画クリップのプレイリストを活用した単元のまとめ

～個別最適な学びに向けた授業設計のあり方～

横浜市立新石川小学校 武井 三也

【実践報告の概要】

1人1台端末を用いた個別最適な学習を実現するために、課題解決に向け、個人の興味関心に即したNHK for Schoolの番組やクリップをまとめたプレイリストを準備した。また、単元の学習をまとめるにあたって児童とともにループリック（内容面と見た目に分けたもの）を作成した。課題解決の過程において、児童同士の教え合いの活動時間を確保することで、内容面の充実が図られた。個別最適な学びの実現に向けて、内容面と見た目に分けたループリックの作成とプレイリストの活用が必要であることが分かった。

【取組の具体】

5年 理科 ふりこのきまり

①単元の見通しをもつ

NHK for School「ふしぎエンドレス5年」視聴

②学習計画・実験計画を立てる

③～⑤

ふりこの1往復する時間について調べる

【ふれはば】【おもりの重さ】【ふりこの長さ】
（スプレッドシートを活用し、実験結果を共有）
（実験の様子をロイロノート・スクールで撮影）

⑥⑦ まとめの課題

NHK for Schoolの映像をもとに単元のまとめ課題に取り組み

【活用番組と実践者による番組分析】

『ふしぎエンドレス5年』『ゆれ方がちがうのは？』日常の「ふしぎ」に目を向け、小学5年生が実際に予想をしたり、調べ方を考えたりする。その予想の方法や調べ方の発想が、調べ方を考えるときに注意しなければならない、条件制御にも目を向けさせてくれる。決して模範解答ではなく、理科の見方・考え方を働かせた考え方をモデルとして提示されるので、視聴した児童がさらに考え、「ふしぎ」の解決に意欲的になっていく。

【本実践における工夫点】

【課題をつかむための番組視聴】

単元を通した課題をつかむために、「ふしぎエンドレス5年」を視聴した。視聴することで、単元全体の見通しをもつとともに、実験のための条件を考えることにつながった。

【ループリックの作成】

単元の学習を振り返ることのできる課題を提示する際に、児童とともにループリックを作成した。継続的にループリックを作成することで、課題解決の際の拠り所となり、学習の個性化を図ることができた。

【プレイリストの活用】

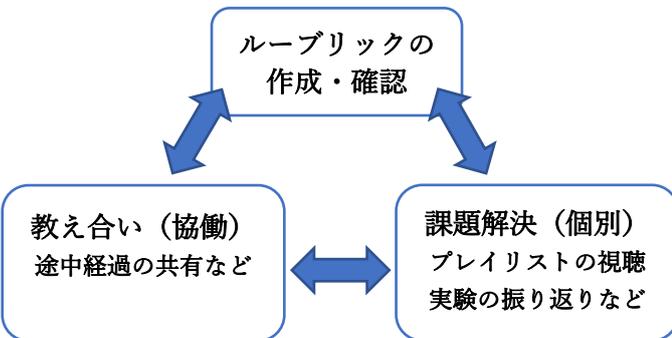
課題解決のために必要な情報をプレイリストとして公開し、児童と共有した。プレイリストのクリップ動画と自分達の実験映像を比べるなど、単元の学習を振り返るツールとして活用していた。

【教え合い】

個別に解決している中で、途中経過を共有したり、有益な情報を紹介し合ったりする時間を確保することで、課題のまとめ方や情報の取捨選択において、互いに確認し合うことができた。

【本実践の成果と課題】

理科の単元の学習を通して、番組視聴・プレイリストの活用、課題の提示、ループリックの作成（内容面と見た目）をバランスよく配置することで、児童が主体的に学習に参加し、学習の個性化や協働的に学習を進める姿を確認することができた。しかし、プレイリストの精選や提示の方法、タイミングについては、再考していきたい。1人1台端末の活用（学習支援クラウドサービス）とNHK for Schoolアプリの親和性が高まると、より主体的・対話的で深い学びにつながっていくと感じた。



	S	A	B
内容	【3】→【4】→【5】 ふりが使われている道具や建物の仕組みについても説明できる。	【8】→【9】の条件について比較することができている データをしっかりと書いている。	1往復する時間がどのような時に変わるのかを説明している。
見た目	パッと見てわかる文字を少なく	大事な部分を強調する	図や写真を使っている

NHK for School プレイリスト 4662

このことからブランコの揺れ方にズレがおきるのは、**ふりこの長さが関係しているため**

また、ふりこの長さが短くなると1往復する時間は短くなり、長さが長くなると1往復する時間は長くなる

結果
ふりこの長さ
200cm → 1.3秒
400cm → 1.3秒
600cm → 1.6秒

【ふれはば】	【ふりこの長さ】	【おもりの重さ】
1往復する時間 10cm=1.3秒 20cm=1.3秒 30cm=1.3秒	1往復する時間 20cm=0.9秒 40cm=1.3秒 60cm=1.6秒	1往復する時間 20g=1.3秒 40g=1.3秒 60g=1.3秒

これらのことから振り子が1往復する時間にはふりこの長さが関係があり、ふりこの長さが長ければ長いほど時間が長くなり、ふりこの長さが短ければ短いほど時間が短くなるということがわかる

（時間）長い ← → 短い
（長さ）長い ← → 短い

2つのブランコがずれた理由は？

二つのブランコの高さ、ふりこの長さが違くて、大人が乗っているほうのブランコのほうがふりこの長さが短いらから速く1往復する

小学校6年 子供一人一人が自分事として思考する、番組を活用した授業づくり

～「いじめをノックアウト」から SNS でのいじめの対応を考える～

東京都杉並区立天沼小学校 澤 祐一郎

【実践報告の概要】

日常生活で経験しやすい出来事を題材として扱った番組を視聴したことで、子供たちは自分事として学習内容に臨むことができた。クラスの友達や番組クリップなど、様々な視点から「SNS でのいじめ」への対応を考え、いじめ予防やいじめ防止を目指して、主体的に学習している姿が見られた。



【取組の具体】

小学校6年特別活動「SNS のいじめと向き合おう」

1. SNS に関する実態を知り、学習課題を設定する。

- ・ SNS の意味を確認する。
- ・ 事前に行った無記名でのアンケートを確認する。
「友達を仲間外れにしたことはありますか。」



- ・ 事例から SNS のいじめが増えていることを確認し、どのように対応するか学習課題を設定する。

2. “SNS のいじめ” に対して、どのように対応すれば

いいか話し合う。

- ・ 『いじめをノックアウト』の「SNS のいじめ」(前半)を視聴し、「悪口を言いたくないのに言わないといけない状況」でどのように対応すればいいか話し合う。(二項対立)
- ・ 同番組(後半)を視聴し、「自分がターゲットになり、心が傷ついてしまった状況」でどのように対応すればいいか話し合う。



3. 日常生活における自分の行動を考える。

- ・ SNS でのいじめで苦しむ人がうまれないために、必要なことは何かを考え(ワークシート)、話し合う。

4. 学習を振り返る。

- ・ 番組内のクリップ「みなみの考え」を視聴する。
- ・ 今日の学習を振り返る。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「いじめをノックアウト」

- 子供たちの実生活の経験から番組が構成され、SNS でのいじめをはじめとして、「いじめ」を考える題材として適している。
- 登場人物の「心の声」が意見として取り入れられており、自分事として「いじめ」を考えやすい。

【本実践における工夫点】

アンケートによる実態調査と事例紹介

番組を自分事としてより捉えやすくするため、「アンケート」と「事例紹介」を行った。アンケートは無記名のため、匿名性が高く、子供たちの本音を引き出しやすいと考えた。また事例紹介では、同年代の子供が SNS でのいじめで苦しんでいるニュースを扱った。

番組クリップ「みなみの考え」の活用

学習の振り返り場面では、番組クリップ「みなみの考え」を視聴した。状況によって対応が異なる「いじめ問題」に、対応方法の正解はない。ただ、自分の対応の指針をもつことで、いざその状況に陥った際に戸惑いや不安感を軽減できる可能性はある。他の人の意見を受け入れ、考えの幅を広げることを目指した。

【本実践の成果○と課題●】

- 番組視聴を通して、SNS ツールは友達や知り合い同士で手軽にコミュニケーションを図ることができる一方で、簡単に人を傷つけてしまうこともあることを理解していた。
- SNS でのいじめに自分が苦しむ状況になった際、どのように対応するのか自分事として考えていた。
- GIGA 構想が進む中で、本事例以外にも題材を取り扱い、情報モラルを高められるようにしていく。

小学校6年 放送教育のよさを生かした1人1台端末の活用

さいたま市立浦和別所小学校 石川 秀治

【実践報告の概要】

GIGA スクール構想により、1人1台端末の活用が進んでいる。一方、自治体によって導入しているアプリが違うため、それらを活用したよい実践を参考にしようとしても同じようにできないこともある。しかし放送番組はどの端末でも同じように「わかりやすい」「自分らしく学ぶことができる」「みな同じ舞台に立って考えることができる」「学ぶ喜びを味わうことができる」といったよさを生かすことで、アプリの違いを越え、より効果的に1人1台端末を使うことができると考え、実践を行った。

【取組の具体】

活用番組『歴史にドキリ』

6 学年社会科 小単元「全国統一への動き」

単元計画

時	学習活動	『番組』『アプリ』
1	○番組を視聴、視聴後の対話から歴史的事象等を関連付けて捉える ○学習問題を設定する	『武田信玄・上杉謙信』
2	○「長篠合戦図屏風」をもとに、戦国時代の戦いの様子について考えたことを伝える	ミライシード「オクリンク」
3	○番組を視聴し、話し合う	『フランシスコ・ザビエル』
4 ～ 6	○番組を視聴し、話し合う ○3 武将のうち、誰がこの時代の MVP と考えるか決定する	『織田信長』『豊臣秀吉』『徳川家康』 +NHK for School クリップ動画
7	○選んだ人物について投票し、その理由を記入して伝え合う ○学習のまとめをする	ミライシード「ムーブノート」

番組視聴と学習問題設定

番組視聴から、登場人物と時代背景や時代の変化等を捉え、学習問題「戦国の世の中となり、時代はどのように変わっていったのだろう」を設定する。

アプリの機能活用

児童は番組を視聴すると、①自分なりに理解する→②学級での対話により、理解を確かなものにしていく、となる。そのようにわかったことをもとに資料を見ると、より多くのことに気付くことができる。そこで「長篠合戦図屏風」の全体図を6つに分割・拡大し、ミライシード「オクリンク」(プレゼンテーション向き)に送信。自由に書き込ませる。

番組視聴をもとに深めた考えの交流

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3 武将について、番組を視聴。さらに関連するクリップ動画を各自視聴するなどして、この時代の MVP を根拠をもって決定、説明できるようにする。意見は、ミライシード「ムーブノート」(コミュニケーション向き)で交流する。



【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組『歴史にドキリ』

- 歴史上の人物を軸にした番組構成。児童は、中村獅童さん扮する歴史上の人物に感情移入するなど、その人物についての関心をもち、対話しやすい。
- 映像により歴史的事象と人物を関連付けて捉えられる。
- 「ドキリソング」を口ずさむなど、楽しみながら自然に要点を記憶に残すことができる。
- 「ドキリポイント」で要点を再確認できる。

【本実践における工夫点等】

番組は全て・丸ごと視聴する

放送教育のよさである「わかりやすさ」「自分らしく学ぶことができる」等を生かす。番組を分断するのではなく、丸ごと視聴することによって、関連付けて捉えられることを大切にする。また、放送される番組は全て視聴する。視聴後「わかった!」から学習をスタートし、対話を通して理解を深める。

1人1台端末を生かす

番組視聴を学習の入り口とすると、全員が同じ舞台で、自分らしく考えることができる。そこを土台とし、アプリの機能を生かして学習を進める。

○拡大機能と書き込み

プレゼンテーション用のアプリ「オクリンク」を使って資料を拡大し、細部まで捉えたり、資料に書き込んだりして、自分の視点や気付きを示す。

○コミュニケーション (対話・交流)

全員が自分の考えを送り、それぞれが根拠をもって自分の意見を記述する。また、友達の見解を読むことや、コメントを送って交流することで、新たな視点に気付いたり、考えを深めたりする。

【本実践の成果と課題】

○番組を全て視聴したことや、クリップ動画を視聴したことで、その人物を理解すると共に、客観的に人物を選択し、自分の意見を書くことができた。

○番組視聴が土台となり、「ムーブノート」を使うことで、全員が根拠をもって自分の意見を示し、他の子の意見を読むこともできた。また、コメントを送り、交流を通して理解を深めるなど、対話的な学習を行うことができた。

△小単元の中で実施するには学習活動が多く、じっくり取り組めないことがあった。担任、児童共に操作に慣れることで解消できると考える。

小学校 6 年 放送番組をもとに「多面的にみること」を鍛える方法を探る

～放送番組「昔話法廷」から始まる学びとは～

兵庫県たつの市立新宮小学校 石堂 裕

【実践報告の概要】

放送番組「昔話法廷」は、子供たちの知る切り口とは異なった2つの視点から昔話をとらえている。朝の学習タイム（15分間で週に1回）や自宅でのオンデマンド学習を設定し、番組をもとに「多面的にみること」のよさを整理した。そこから得た手続き的な知識を、国語や社会科などの教科学習や総合的な学習の時間に意図的に取り入れる経験を積み重ねながら、その都度、記述による評価を行い、子供たちの「多面的にみること」を育もうとした実践である。

【取組の具体】

活動の流れ

※記述はクラウド上の協働学習ツールに書き込む。

【6月～7月：習得期間】

- ①週1の朝の学習タイムを利用する（15分番組）。
- ②自宅でのオンデマンド学習（20分番組、33分番組）での作文をもとに、意見交流する。

※本実践における工夫点参照



【学習環境設定：①の場合】
モニターで番組視聴

協働学習ツールへの書き込み

②でのA児の記述より

ぼくは昔話法廷を見て、多面的にみるのが大切だと思う。多面的にみることは、壁で例えると表から見ていた絵が、裏から見ると反対の絵で違うように見える。さるかに合戦などの昔話は、多面的に見ると考えていたことが異なる。さるかに合戦では、猿がカニを殺したことは事実だから罰を受けるべき。しかし、その猿から見ると異なった。社会の授業で、朝廷ばかりにスポットライトを当てていたのが農民にスポットライトを当てると意見が変わった。

このように、多面的にみると違うように見える。だから多面的に見ることは大切だと思う。（原文のまま）

【8月～1月：活用期間】

- ・総合「わがまち見聞録」の学習では、複数の資料読解を試み、日本遺産「北前船」を多面的にとらえることを意図的に仕組む。
- ・社会科や理科では、教科の見方・考え方を働かせながら、複数の視点を挙げて、広く考えたり深く考えたりする。
- ・国語の物語の授業では、同一著者の複数の作品から、著者の魅力に迫り、レポートにまとめる。

【7月～1月：「多面的にみること」を自己評価する】

- ・記述による評価を蓄積し、学習者の意識を見とる。

B児の記述より

私も、5年生の時までは「多面的に捉える」ということが出来ていなかったけれど、昔話法廷が「多面的に捉える」ことの一つのきっかけとなった。それは、どのお話でも、正面から見ると、お話通りだけれど、横や後ろから見ると想像とは違っていた、ということがある。だから、これからも多面的に捉えることを大切にしようと思った。（原文のまま）

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「昔話法廷」

この番組は、子供たちのよく知っている昔話の登場人物が裁判されるストーリーで、1つの出来事を2つの視点から捉えて、議論する構成である。

社会科学習で、裁判の知識がある6年生の子供たちには理解しやすい構成であり、さらに、昔話とは異なる予想しなかった展開に関心の高まる子供たちは、番組構成とつながる「多面的にみること」を意識しやすくなると判断した。

【本実践における工夫点】

番組利用

番組が15分、20分、33分とあり、この特徴を活かすために、次の2つの学習を仕組む。

- ①「朝学習タイム（週1金曜）としての活用」
15分番組の利用
 - ②「自宅でのオンデマンド学習としての活用」
20分番組と33分番組の利用
- また、①と②は、次の異なる学習展開とする。
- ①番組を視聴しながら、同時にチャット的な短文を協働学習ツールに書き込む。記述をもとに次週の朝学タイムで意見交流する。（2週間で1話題）
 - ②木曜日にオンデマンド学習で視聴し、200字作文を協働学習ツールに書き込み、翌日の金曜日の朝学習で意見交流する。

汎用的に意識できるように

「多面的にみること」を教科学習や総合的な学習に意図的に仕組み、月1回、自己評価する。

【本実践の成果と課題】

主な成果を2つを紹介する。

- 番組が理解しやすく、①では、記述内容を3つ（内容、場面、見方・考え方）に分類できた。内容面について、番組同様の対立した意見で議論することができ、その経験が「多面的にみること」を自覚化するきっかけになっている。また、②では、「一方」という言葉を用いた文章記述が増えた。これも「多面的にみる」効果が発揮されたと理解している。
- 「多面的にみること」を他教科や総合に意図的に仕組んだことで、子供たちは、それを意識して思考していることが、自己評価から読み取れた。

小学校 6 年 埼玉県放送教育会の理論と AI テキストマイニングを活用した実践 ～新番組 道徳「SEED なやみのタネ」の視聴を通して～

埼玉県川越市立霞ヶ関東小学校 武井 佑樹

【実践報告の概要】

埼玉県放送教育研究会では、番組視聴を通して「意味場」と「空発問」の理論から、放送教育での授業実践を進め、コロナ禍の中、月 1 回の zoom 定例会にて報告している。今年度、私は普段見えない「意味場」の具現化・具象化に近いものとして「AI テキストマイニング」を活用して授業実践を行なった。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組…道徳「SEED なやみのタネ」

- 2021 年 10 月より新番組として放送開始。
- 「道徳ドキュメント」「オン・マイ・ウェイ！」の系譜を受け継ぐ、道徳のドキュメント番組。
- 番組にストーリーがある。
- 主人公の悩みを取り上げ、向き合う姿を通じて現代社会の課題を考えていく内容。
- 児童生徒の生活とは、内容が離れているからこそ考えやすい。

【取組の具体】

○授業の仕方

- ①
- ・番組を視聴する。
(「意味場」が形成される。)



- ②
- ・Google Forms で価値項目についてアンケートを取り、「AI テキストマイニング」に読み込ませる (1 回目)。

- ③
- ・分析された言葉を起点として、「空発問」をし、話し合う。
収斂され構造的な板書をする。



- ④
- ・授業終了間際に再度、Google Forms で価値項目についてアンケートを取り、「AI テキストマイニング」に読み込ませる。(2 回目)

- ⑤
- ・道徳ノートに授業 1 単位時間の振り返り
(学んだこと、考えたことなど)を記入する。

⑥授業事後(教員)

- ・児童のノート記入や 1 回目、2 回目の AI テキストマイニングの画像、板書から授業について振り返る。

【本実践における工夫点】

○「意味場」の理論の活用

児童一人ひとりの発育環境の違いから、知識や経験は多様である。上記のことから番組を視聴すると、思考上での児童一人ひとりで物事のとらえ方や考え方も多様になる。これが「意味場」である。

○「空発問」の理論の活用

形成された「意味場」をアウトプットする方法。教員が「A ということについてどう思いますか?」と発問すると、児童は A について焦点をあてて回答しようとする。だからこそ「意味場」をそのまま表現するために、意図的に無意図の発問をする必要がある。それが「空発問」である。

○AI テキストマイニングの活用

Word やドキュメントなどの「テキスト」を流し込むと AI が判断して、頻度によって語の大きさが変わったり、関連付けられた語が線で結ばれたりする。それを見て、話し合いの起点として用いた。また授業後の分析にも役立てた。

【本実践の成果と課題】

- 番組を大型 TV で一斉視聴したことで、教科書を使用したときに要する読解力を用いず、同じスタートラインに立って話し合いを始められた。
- AI テキストマイニングを活用することで、挙手しない児童も参加することができた。
- AI テキストマイニングを活用することで、話し合いの起点を作れ、話し合い前後の比較ができ、授業後の分析もできた。
- GIGA スクール構想元年ということもあり、当初はタイピングによる打ち込みに時間をとられていたが、回数をこなすことで練度が上がっていった。

小学校6年 『SEED なやみのたね』で多面的、多角的に考え、議論する道徳 ～番組から感じ取ったことを話し合う活動を通して～

川崎市立富士見台小学校 宮崎 誠

【実践報告の概要】

平成30年度より道徳が「特別の教科 道徳」となり、「考え、議論する」ことを通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが求められている。『SEED なやみのたね』は子供たちの知らない現実的な「なやみ」が、ドキュメンタリー形式でまとめられている。今までは子供たちが当たりまえで「これが正しい価値」と考えていたようなことでも、多面的、多角的に見るきっかけを与えてくれる番組である。本実践では、番組をきっかけにして子供たちが葛藤しながら考えを伝え合う場面を設定した。

【取組の具体】「・」は実際の子供の記録より

◎社会における差別や偏見について考え、公平、公正な態度を養う。【公平、公正、社会正義】

導入

「きまり」について自分たちが考えることを話し合う。本時以前にもあつかった題材を振り返ることで既習を確認し、今の自分の考えをGoogleドキュメントに書く。

- ・きまりは守らなくてはいけない
- ・きまりはみんなの安全のためにある
- ・きまりはみんなが守るもの

番組の視聴

『SEED なやみのたね』第2回
「千葉さんのなやみ ～犯罪を犯した人たちを支援しているけれど…～」を視聴し、考えたことを、Googleドキュメントに書く。

話し合い

番組について考えたことを、子供同士で伝え合う。伝え合ううちに、話し合いの柱は次のようなものになっていった。

「社会は、犯罪を犯した人たちを支援すべきか」

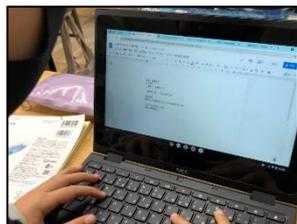
きまりを破ってしまった人たちに対し、社会はどうあるべきか考える。友達のを聞きながら考えたことを再びGoogleドキュメントに書く。

- ・犯罪を犯したのはその人の責任だから、差別するのはだめだと思うけど、支援しなくてもいい
- ・刑務所から出てきてもしっかり反省をしていれば支援してもいいと思います

終末

話し合いを受けて、考えたことをまとめる。

- ・きまりは守らないと社会から避けられるのが一般的だと思っていたけど、生きるために仕方なく行ったかもしれない
- ・ちゃんと反省しているなら支援してもいいと言っている人がいたけど、それだと反省している人としていない人を区別できないと思うから難しいと思った



【活用番組と実践者による番組分析】

『SEED なやみのたね』第2回

「千葉さんのなやみ ～犯罪を犯した人たちを支援しているけれど…～」

刑期を終えた受刑者の方が、日常を取り戻そうとしてもなかなかうまくはいかない。「きまり」を破った人に対して、世間はとても厳しい。一方で支援をしようとする人がいる。「再犯するしかない」という描写もある。「きまり」ということについて、多くの子供たちに新しい視点を与え、対話を促す番組である。

【本実践における工夫点】

既習を生かす

6年生になるまで、「きまり」については何度も考える場面があり「みんなのためにきまりはある」「きまりは守って当たり前」という価値をもっている子供が多い。そうした考えから、番組のように社会できまりを守れなかった人に対する差別的な意識がある。「きまり」は守らなくてはいけないが、破った人に対してどう考えたらよいか話し合う機会になった。

GIGA 端末の活用 (Google ドキュメント)

GIGA 端末に記録することで、共有することができ授業後にもお互いに考えを確認できる。他教科においても情報を共有する活動を行っている。

番組から感じたことを素直に話し合う

本時では、はじめに「きまり」について振り返る時間以外は、子供同士での対話によって授業を展開した。番組の力で「きまりは守るもの」「守らないことは悪いこと」というものだった「きまり」を多面的、多角的に見ること、きまりを守れなかった人に対しての新しい気づきと出会わせたいと考えた。

【本実践の成果と課題】

番組を視聴することで多くの子供が今まで考えたことのなかった差別について考えることができた。一方で、子供の思考を身近な生活のできごとに十分に結び付けるには、教師の支援が足りなかった。『SEED なやみのたね』は、普段多くの子供が体験できないと感じ取ることができる番組である。番組の視聴を通して「考えたこともなかった」「そんな見方があったのか」と感じ、例えば本実践なら「よく廊下を走っちゃう子はみんなにどう思われているか」という、身近な場面について考えさせ、実生活に生かせるようにしたい。

特別支援学校高等部2年 地歴 地理A 「SDGs かるた」作りで取り組む高校地理のSDGs ～「ひろがれ！いろとりどり」から始めるタブレットを活用した主体的・対話的学び～

東京都立光明学園 川口 尚人

【実践報告の概要】

単元の導入として、NHK for School のSDGs プロジェクト「ひろがれ！いろとりどり」を取り入れた。「リフォーマーズの杖」を視聴して、「SDGs」をキーワードにNHK for School のwebサイトで資料検索してSDGsの17目標を調べ、理解する。17目標から自分が調べたいことを1つ選んで内容を調べ、そこから自分ができることを考察し、最後はSDGs かるた作りで川柳とイラストで表現する。時間の制約はあるが、この17のかるたをクラス全員で作成することをめざした。(5時間扱い)

【取組の具体】 準ずる教育課程高等部2年地歴地理A 単元名「持続可能な社会とはなにか？」

本時3/5『SDGsを調べよう～内容と調べ方～』

ねらい SDGsの17項目の調べ方やまとめ方を知り、1つを選んで調べ方、まとめ方の計画を立てる。

1. 「ひろがれ！いろとりどり」のSDGsの17項目から調べる目標を確認する。

・NHK for School のwebサイト「17の目標別動画クリップ」を参照にどれを調べるか決める。

2. 同サイト「みんなで作ろうSDGsかるた」を視聴し、まとめ方を確認する。

・各自タブレットで「みんなのかるた」を見て参考にする。

3. 各自が同サイトで調べたいキーワードから検索、視聴する。

・同サイトで『SDGs』で検索すると関係する番組、クリップが提示される。

4. 調べる目標の達成に必要なものを考え、ワークシートにまとめる。

・各自が考えやすいシンキングツールを活用する。

5. 目標達成させるために自分ができることを考える。

・自分の考えをまとめられるようなワークシートを用意する。

6. 目標達成のための川柳とイラストで表す。

・川柳やイラストを表現する用紙を用意する。

7. 各自が調べ、まとめたところまでを報告する。

・情報共有をするために視覚的にわかるようにする。

8. 本時の感想を各自でまとめる。(発表はしない)

・感想は毎回書いているワークシートに書く。



【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「リフォーマーズの杖」(「ひろがれ！いろとりどり」SDGsプロジェクト)

2100年からタイムスリップしてきた未来人・ヒカルとだらしのない生活を送る現代の芸人たちが、さまざまな体当たり企画に挑む姿を通して、SDGsについて楽しく学べる全小・中学生向けの番組。「飢餓をゼロに」「海の豊かさを守ろう」など全17の目標を万遍なく取り上げている。(webサイト番組紹介参照)

○初めてのSDGsでも、わかりやすく説明しており、導入として取り入れやすい。

○「ひろがれ！いろとりどり」にはSDGsを各自で簡単に調べられるように番組・クリップが用意されていたり、17項目をわかりやすいように歌や動画で知ることができるようになっていたり、1人1台端末で主体的に調べ学習ができるように設計されている。

【本実践における工夫点】

主体的に対話的な活動の保障

・主体的に調べ学習ができるように、シンキングツールを用意して思考の軌跡を明確にした。それに際して、生徒の実態を十分踏まえて精査して選んだ。

・近くの生徒と意見交換して情報共有しながらそれぞれが考えを明確にしていく。

各自が情報を活用・処理できる工夫

・SDGsを各自が調べたり、かるたの作り方を参考にしたり作成したりするのに1人1台タブレットを活用して自分のペースで進められ、タブレットでも手書きでも好きな方法を選ぶことができる。

・どこでどのwebサイトを提示するかを事前に調べ準備しておく。

ワークシートの効果的な活用

・日時、テーマ、キーワード、感想など、毎回授業で使っているワークシートはそのまま使う。

・各自で資料からメモ的に書き込んだり川柳やイラストの下書きに書いたりできるものと、川柳とイラストの掲示用の用紙を別々に用意する。

【本実践の成果と課題】

○SDGsを調べるのにwebサイトから簡単に検索でき、1人1台タブレットが有効に活用できた。

○かるた作りで誰にでも簡単に調べ学習や成果発表をすることができた。

●高校での教科の位置づけをどうするか、全学年的に検討しなければならない。年間指導計画に組み込んだ方がよい。

特別支援学校（ろう学校）高等部3年

「総合的な探究の時間」でのココロ部！ 『外国から来た転校生』を活用して
～様々な文化をもった人たちと、共に生きるために～

東京都立立川ろう学校 服部 千草

【実践の概要】

本校高等部3年生は、毎年「総合的な探究の時間」のテーマとして、国際理解について学んでいる。知識として、国によって文化が異なると理解は出来ても、自分の生活の中で実感し、考える機会はとても少ない。この番組、ココロ部の『外国から来た転校生』は、日本の高校に転校してきた外国人の生徒のふるまいから「自分ならどうすればよいか」と考えることができる内容になっている。日本で暮らしている様々な文化をもった人たちと、共に生きるためにはどうしていけばよいのかを、自分のこととして考えることができる学習となった。

【実践紹介】

高等部3年 総合的な探究の時間「国際理解」
～多文化理解、共生社会～

今年度はこれまでに、ニュージーランドやタイのろう学校と交流するために、日本の文化を紹介する取組みとして、和菓子を粘土で作成し、交流校に送っている。コロナの関係で、直接交流は行えていないが、JICA 地球のひろばや TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) などにも行って、いろいろな文化に触れ、共通言語である英語での実際の交流などの経験もして **粘土細工和菓子** ↑ きた。



ただ実際に、様々な文化をもっている人と、課題にぶつかりながら、共に生活するという経験はできていない。この『ココロ部』“外国から来た転校生”を視聴することで、自分のこととして問題を捉え、自分の考えをまとめ、話し合いを行い、どうすればよいか、共生社会を生きる上での1つの考え方を学んだ。

—授業展開—

○本時の目的を確認する。

- ・日本に住んでいる外国人の価値観について、考える。
- ・「コジマくん」が困っていること、自分がその立場ならどうするのか考える。

○番組を視聴する。(7分40秒まで)

Q1. コジマくんはどうしたらよいと思いますか。その理由も書いてください。

- ・ワークシートに記入する。自分の意見、班の意見
- ※個人で考えた後、班に分かれて話し合い、発表する。

○番組を視聴する。(続きから最後まで)

Q2. 外国の人たちと共に暮らすために必要なことは何だと思えますか。

- ・ワークシートに記入する。自分の意見、班の意見
- ※個人で考えた後、班に分かれて話し合い、発表する。

○まとめを行う。

Q3. この学習から考えたことをまとめてください。

- ・ワークシートに記入し、本時の振り返りを行う。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「ココロ部」

○様々な迷いがあるとき、どちらがよいのか、自分の気持ちと他者の気持ち、どちらを優先すればよいのか、他にも方法はないかなど、自分の問題として考えることができる。

○結論が出ないまま番組が終わることで、自ら具体的な課題を発見し、自分の気持ちと向き合うことが出来る。自分の考えをもった上で、話し合うことで主体的・対話的で深い学びとなる。

【本実践における工夫点】

年間計画の中での学びの順番（12月に実施）

国際理解は、高等部3年の総合的な探究の時間の年間を通したテーマである。今年度の生徒は、海外の学校と交流するにあたり、日本文化の紹介に和菓子を選んだ。次にTGGやJICAの見学で、海外の文化に触れる経験をした。その上で、あまり経験のない自分の生活圏内に、異なる文化が入ってきたとき、異文化に向き合うために学校放送番組を活用した学習を、この時期に設定した。

放送回の選定

生徒たちがあまり経験できないことを考えさせる状況を設定するのに、番組視聴はたいへん有効である。総合的な“学習”の時間のころから、この回は視聴させている。日本人にはなかなかないタイプの転校生とのやりとりを見て、共生社会を生きる生徒にとって、深い学びになると思い設定した。

【本実践の成果○と課題●】

○前半を視聴した後は、相手の文化も理解するが、日本の文化、校則についても理解してもらうように話をするという、互いの文化理解に留まった意見が多かった。後半を視聴した後は、先生にも相談し、学校としてブラジルの文化について理解してもらうなど、共生社会の考えに、近づく考えが増えた。

○結論は出さない構成であるが、社会情勢などの情報を知るだけで、自分の考えをブラッシュアップすることが出来ていた。

●まだ柔軟な考えをもつことが出来る高校生の間に、考えられる番組の視聴時間をより確保し、主体的・対話的で深い学びの時間をさらに増やしていきたい。

特別支援学校（ろう学校）高等部1年 「科学と人間生活」 「実体験の代わりとなる“NHK for School”の学びについて」

～自ら学ぼうとする生徒の育成～

東京都立立川ろう学校 服部 千草

【実践の概要】

「科学と人間生活」の“自然景観と自然災害（地学分野）”の単元時は、毎年度一番多くの番組視聴を行っている。実験や観察で原理などは理解できても、本当の自然の成り立ちや関連する自然災害を考えるには、番組視聴による確認が、たいへん有効だからである。今年度も様々な番組を視聴し、自然景観や自然災害について学んだ後、いつもPC室等を使用していた調べ学習について、1人1台iPadを理科室で使用し、ロイロノート・スクールでまとめ発表した。さらに最近増えていると生徒たちも実感している自然災害に備えるために、理科番組ではない『ドスルコスル』の“どうする？大災害起きたら”を視聴し、この学習が生活につながる生きたものとなるようにまとめた。

【実践紹介】科学と人間生活

「身近な自然景観と自然災害」単元計画

時	学習内容
1	・日本列島の特徴と成因、プレートの動きについて理解する。プレートの動きクリップ視聴
2	・火山の噴火、原因、形とマグマの関連性、火山活動について、論理的に思考する。 「ふしぎ情報局」“揺れる大地”“火をふく山” 「アクティブ10理科」“火山”視聴
3	・断層のでき方を、地層モデルで実験する。
4	・溶岩モデルを製作し、実験により確認する。
5	・粘性から火山の形を理解する。実験まとめ
6	・地震発生のしくみ、地震活動とプレートとの関連性について、科学的に理解する。 ・液状化をモデル実験により確認する。
7	・河川や海水によって形成された地形を知る。 「ふしぎがいっぱい5年」“大地をけずる水” 視聴 ※身近な多摩川の様子など
8	・自然災害の直接被害、二次災害、予知と防災について理解する。まとめプリント等使用。
9	・日本列島で見られる気象災害の特徴としくみについて、科学的に理解する。津波・液状化・土砂災害等に関するクリップ視聴
10 11 12	・気象災害の記録を探索し、災害の様子を調べる。※教科書記載「やってみよう」 ・iPadを使用し、ロイロノート・スクールでまとめる。
13	・お互いの発表を聞きあい、自然災害の危険性について、共有する。発表
14	・この単元で学習理解したことをまとめる。 「ドスルコスル」“どうする？大災害起きたら”視聴

○以下、「ドスルコスル」を視聴した後の感想抜粋

- ・自助、公助、共助の3つの力が必要。
- ・災害にあった時、いつまでも公に頼ってばかりではだめだということ。いつ災害が起きても大丈夫なように、家は準備しているが、再確認したい。
- ・自主防災組織に若い世代が必要だとわかった。
- ・大きな災害は来てほしくないが、自分の命を守る、お互い助けるなど、災害から学ぶこともあると改めて分かった。
- ・災害が大きくなる前に逃げようと思った。 等

【活用番組と実践者による番組分析】

※字幕がある番組を主に活用している。『10minボックス』なども視聴するが、字幕がないため、手話通訳になる。字幕があるとさらに活用できる番組は広がる。

アクティブ10理科

○3つのコーナーを使った探究活動で構成されており、考える材料は提示されているが、答えは示されていない。視点をもって比較ができるような構成のため、課題を各自で検証でき、考察できるようになっている。

○新学習指導要領にもある、「理科の見方・考え方」さらに、思考ツールの使い方が紹介されているコーナーがあり、理科にとっての考え方だけでなく、生活の中で活かせる考え方も紹介している。

【本実践における工夫点】

自然景観の成り立ちを番組視聴により確認

プレートの動きが自然景観に関係していることや、日本に多い地震、火山とのつながりにも気づくようにクリップの視聴を行った。小学部や中学部で習った、地震や火山のしくみを思い出し、興味をもって実験に入れるように、番組の視聴を行った。

自然災害と防災について

水のはたらきが地表にもたらす変化の大きさについて、過去の台風がもたらした事例から考えられるように、番組やクリップの視聴を行った。また自分で興味・関心をもった災害について調べ、発表を行った。最後に実際に災害が起きたときはどんなことが想定されるのか、今できることは何かを考えるために、「ドスルコスル」の視聴を行った。

【本実践の成果○と課題●】

○自然景観が地震や火山、水のはたらきによって造られたものであると理解できた。

○まとめに番組を視聴したことで、災害は怖いものというだけでなく、自分たちの問題として捉えられ、自助、公助、共助の考え方を育むことができた。

○理科の学習が、日常生活や社会生活に密接に関連していることを、意識できた。

●字幕がない映像は、手話通訳を行っているが、文字情報もほしい。

●実験映像については、字幕がなくとも、自分で映像から読み取る考察の力をつけたい。

中学校 3学年 分散登校中におけるオンライン授業での道徳実践

新座市立第二中学校 関口 麻理子

【実践報告の概要】

分散登校になり、クラスの半数が教室、半数がオンラインでの授業という形態での道徳を行い、学級での学びを保つためにICTを活用し実践した。教材理解を補うために、3分弱の動画を個人で視聴した後、教科書の話を読み音声を一斉傾聴した。その後、オンライン生徒を中心に考えや意見を聞いていき、教室の生徒とのやり取りで話し合いを広げ深めていった。教科書に入る前の動画視聴により、生徒の第二次世界大戦中のユダヤ人が置かれた状況を一定の理解を図ることができ、題材に向き合う姿勢ができたことは大きな成果であった。

【取組の具体】

「命のトランジットビザ」C-(18)国際理解、国際貢献
日本文教出版

本題材では杉原千畝の行動を通して、世界平和や人類の幸福を大切に思う心について考えるねらいがある。杉原のような行動をとれるようになりたいという考えではなく、生きていく上で何を大切にしたいかを考えさせたい。

1. 共通理解をはかるため動画視聴

第二次世界大戦禍でユダヤ人がどのような状況に置かれていたのか、クラス全体の共通理解のために2分の動画を個人で視聴する。

2. 教科書を読む

杉原が日本政府の意向とは反するビザを発給するまでの葛藤や退去するその瞬間までビザを書き続けた行動など「命のトランジットビザ」を読む。オンラインの生徒と教室にいる生徒同時に範読を聞くことを考え、画面配信で音声による音読を聞く。

ここでは、みんなで一緒に考えていく場を作っていきたいと考え、一斉での傾聴とした。

3. 話し合い活動

日本政府の思いに沿っているとは言えない杉原の決断は、人道主義や博愛の精神を第一に考えた行動である。日本政府側の視点では、杉原の取った行動は国の意に反するものであり、ユダヤ人側からの視点で考えれば命を救ってくれたという相反する価値が見えてくる。

4. 振り返り

友達の意見を聞いたり、話し合ったりして最終的な自分の考えをノートに書きまとめる。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組

「アウシュヴィッツで何があったのか？解放から75年－BBC ニュース」

○社会情勢やドイツの支配とユダヤ人の迫害について3分弱で分かりやすく概要を知ることができる。

【本実践における工夫点】

補助資料としての動画

クラス全体で共通理解をした上で教材の話に入りたかったため、動画を視聴した。一人ひとりが命について向き合って欲しかったので、個人視聴にした。学びの雰囲気作りになる。

オンライン生徒と教室の生徒のつながり

動画視聴で気持ちを整え、一斉に教科書の話に入って行く流れを作った。個人での傾聴でなく、一斉にした理由は、オンライン生徒と教室の生徒との場と時を共有するというねらいがある。

【本実践の成果と課題】

○各自で補助資料としての動画を視聴したことで、教科書の内容を深く感じ取ることができ、いくつかの視点での意見が出ることに繋がった。

○動画視聴により、みんなが気持ちを整え、同じ土俵に登ることができ、オンラインでも学びの雰囲気を保つことが出来た。

●オンライン生徒が黒板を明確に把握できない状況だったため、板書をせずに展開した。スライド等で意見を整理できる場を工夫していきたい。